

# 保育内容の研究（言葉）の授業改善における課題を探る －学生の授業への意識調査から－

## Improvement of Early Childcare Language Education

### －From a Survey of Student－

柴 ひろ

#### 要 旨

本大学では、2 学年から保育の専門科目の授業を多く受講するようになる。学生にとっても、将来、保育者になる専門的な学びをする事になる。2 年生は、実習も未経験なため、乳幼児の姿や、育っていく姿をイメージしにくく、授業の内容も中々理解出来にくい事も考えられる。本論では、授業に対する学生のイメージを分析する事を通して、学生達が授業内容を理解し、少しでも実践への糸口を見つけることや、保育実践への結びつきが出来るよう、授業改善に繋げて行く事を目的としていく。

キーワード：授業 改善 実践への結びつき

#### 1 はじめに

保育内容の研究は、幼稚園教育要領・保育所保指針・認定子ども園保育要領に示されている 5 領域を内容とした授業である。本大学では、2 年生がこの授業を受講するが、実習が未経験の学生にとって、保育者と乳幼児とのかかわり、乳幼児の育ちの姿、保育園、幼稚園で保育者の援助や支援の在り方についての理解が出来にくく、ともすると実感のないままに授業が進んでしまう懸念がある。

本論文では、このような学生の実態を把握しながら、学生が専門知識を身につけるためにはどのような授業の展開を必要とするのか。ここでは、「保育内容の研究（言葉）」の授業内容及び授業の展開の在り方を、学生の授業に対するイメージを足がかりに授業改善の課題を探求して行きたい。

## 2 保育内容の研究（言葉）が目指すもの

### (1) 領域「言葉」

保育所も幼稚園も子ども園も意図的な教育を行う施設であり、保育所においては「保育所保育指針」、幼稚園においては「幼稚園教育要領」、認定子ども園においては「保育要領」に保育内容が位置づけられている。領域「言葉」は、「言葉の獲得に関する領域」として示され、目標とねらいが次のように示されている。

経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う。

○ねらい

- ・自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
- ・人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。
- ・日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる。

ここに示されている領域「言葉」のねらいを保育実践のなかで達成するためには、保育者の子どもへの関わり方や、子どもへの言葉がけが保育者にとって大切なこととなる。このように、子どもの「言葉」の獲得を支える保育者として必要な事柄を、この授業の中で、将来保育者になる学生にとって、どのような学びが保育実践と結びつけて行くかを考える必要がある。

### (2) 授業の目的

「乳幼児は、生活や遊びをとおして言葉を獲得していく。また、さまざまな活動の中で言葉が大きな役割を果たし、人間関係、認識、表現などの能力を高めていく働きをする。これらの意味を理解し、実践的に役立つよう学んでいく。」(2017年度シラバス)とあるように、この授業内容は、将来保育者として乳幼児の言葉の発達を援助するにはどのような学びが必要であるかを具体的に学生の学びに結びつけることが必要である。

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「保育要領」では、「言葉」の領域の中で、子どもの「言葉の獲得に関する領域」として位置づけられている。しかし、保育内容の研究「言葉」の授業の目的でも述べられているように、乳幼児の「言葉」を獲得とは、乳幼児の様々な発達と関連し、相互に作用し合いながら達成される。つまり、乳幼児が生活や遊びの中で獲得する「言葉」とは、単なる語彙を知ると言う活動に留まる事ではなく、人として成長していく上で様々な能力の源となることである。したがって、この授業の目的は、人として成長して行く乳幼児を支える保育者の役割を果たすべく実践に結びつけて行く必要がある。

次に、今年度のシラバスから、授業の到達目標及び授業計画を記載する。なお、今年度から、シラバスには、授業の予習、復習の時間も記載されることになった。

<p>授業の到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の言葉の獲得と発達の過程が理解できたか。</li> <li>・言葉を豊かに育てる保育の在り方について考察する事ができたか。</li> <li>・領域「言葉」について理解を深めることができたか。</li> </ul>	
<p>授業計画（授業シラバスより）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 子育てと言葉</li> <li>3 領域「言葉」が目指しているもの</li> <li>4 領域「言葉」とほかの領域の関係</li> <li>5 乳幼児の言葉の獲得について</li> <li>6 言葉を育てる環境（教師の役割他）</li> <li>7 言葉を育てる文化（絵本を通して）</li> <li>8 実際にお話をつくろう（素話）</li> <li>9 実際にお話をつくろう（続き話）</li> <li>10 カルタづくり（絵と言葉を考える）</li> <li>11 カルタづくり（絵札と読み札をつくる）</li> <li>12 カルタづくり（50音あわせ）</li> <li>13 カルタ取り大会</li> <li>14 言葉にかかわる諸問題</li> <li>15 振り返りと確認</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習・復習・宿題など（時間）</li> <li>テキスト「保育内容 言葉」の各章の予習復習（540分）</li> <li>・言葉を育てる文化財としての絵本「選び、読み聞かせの練習」（540分）</li> <li>カルタづくりへの「絵札・読み札」を考える（540分）</li> <li>・授業のまとめの学習及び、記述する学び（540分）</li> </ul> <p>合計2700分</p>
<p>評価方法</p> <p>授業への取り組み 70%</p> <p>確認テスト 30%</p>	
<p>教科書 小田豊 芦田宏編著「新保育ライブラリー 保育内容 言葉」 北大路書房</p> <p>参考書 文部科学省 「幼稚園教育要領」（平成20年改定）</p> <p>厚生労働省 「保育所保育指針」（平成20年改定）</p>	

以上のような授業計画は、シラバスとして学生に周知されている。しかし、このシラバスを周知し、授業の内容および流れを理解している学生は少ない傾向がある。そこで、学生のこの授業に対する理解および意識を調査し、授業をどのように進めていく必要があるかを検討した。

### （3）本授業に対する学生の意識

#### 1）意識調査の方法

学生のこの授業に対してのイメージがどのようなものであるかの調査を、第1回のオリエンテーションで学生125名からアンケート形式で、設問に対して自由形式で書くものとした。（回収率100%）質問内容は、①保育内容の研究（言葉）の授業では、何をイメージしますか、②子どもの言葉の発達には、どのような事が必要と思いますか。③将来、保育者になったとき、保育者の言葉としてあなたが気をつけようとすることはなんですか。④あなたの知っている「言葉あそび」は何ですか。このような質問内容を自由形式で記述させ、記名はするが、記述内容が、この授業の成績には一切無関係であることを周知し、自由に記述できるように配慮した。

## 2) 学生の意識（イメージ）アンケートの結果と考察

学生が記述した内容をおおよそ類似した八つのカテゴリーに分け、その類似したカテゴリーの種類とそこに当てはまる数量を読み、その数量から学生の授業へのイメージを考察した。

第1回目のオリエンテーションでのアンケートでは、次に示すような結果になって表された。

### ①保育内容の研究（言葉）のイメージについて

- ・子どもの言葉の発達を学ぶ 87
- ・子どもに対する保育者の言葉遣い（わかり易く伝える）23
- ・感情や気持ちを表現する言葉遣い 5
- ・保育者としての言葉遣い（保育者の声かけ）38
- ・自分の思いを伝える力をのばす（保育者として）6
- ・言葉の影響力 16
- ・コミュニケーションのとり方 5
- ・言葉あそび 1

ここでは、学生がもっているこの授業に対するイメージがどのようなものであるかを表わしている。学生は、「子どもの言葉の発達を学ぶ」という意識は大部分がもっているが、上記の数字が示すように、「保育者の言葉遣いについて学ぶ」というイメージが強く、子どもへの「言葉遣い」・保育者としての「言葉遣い」という「言葉の使い方」を学ぶイメージが多くあることが窺えた。

### ②子どもの言葉の発達には、どのような事が必要ですか

- ・絵本を読む 25
- ・大人が声をかける 53
- ・正しい言葉を聞く 42
- ・保育者とのコミュニケーション 36
- ・話したくなる環境 15
- ・愛情をもって話す（大人が）14
- ・様々な経験 5
- ・挨拶や礼儀を教える 3

ここでは、学生の意識の中には、「大人が声をかけていく」、「正しい言葉を聞く」「大人とのコミュニケーション」の数値が高く、子どもの言葉の発達には大人のかかわり方が大切と考えていることが読み取れる。やはり、子どもの言葉の発達には、大人とのかかわりを通して、子どもに話しかけることにより、子どもの言葉が発達すると考えている事が読み取れる。また、学生にとっても身近にある絵本が子どもの言葉の発達に欠かせない存在であると考えている事も少なくはない。

③保育者の言葉として気をつけようとする事は

- ・丁寧な言葉遣い 50
- ・正しい言葉遣い 63
- ・人を傷つけない 19
- ・赤ちゃん言葉を使わない 2
- ・保護者への言葉遣いに気をつける 3
- ・ほめる言葉を大切にすゝ 4

ここでは、保育者として「正しい言葉遣い」や「丁寧な言葉遣い」が高い数値を示し、保育者として言葉遣いの大切さを感じているのが読み取れる。このことは、子どもの前では、保育者として相応しい言葉遣いを身に付ける事が必要であり、これから保育者になる学生にとっては、自分の言葉遣いを省みる事が必要と考えているとも思える。また、「人を傷つけない」との事も19ある事に注目すると、集団の中で何気ない保育者の言葉が、子どもの心を傷つける場合が少なからず有るという意識ももっている事が窺える。

④知っている言葉あそびは

- ・しりとりに 109
- ・なぞなぞ 17
- ・カルタ 5
- ・マジカルバナナ 16
- ・早口言葉 25
- ・伝言ゲーム 16
- ・だじゃれ 1

ここでは、「しりとりに (109)」が学生の中に身近にある「言葉あそび」の一つになっていると思われる。「カルタ (5)」が予想外に少なく、学生のカルタの意識と、保育現場での「言葉あそび」として取り上げられる「カルタ」の「言葉あそび」としての認識とは違ったものとして受け止めているように思われる。その反対に「早口言葉 (25)」、「マジカルバナナ (16)」といった事が、学生の身近な「言葉あそび」として受け止められているのが窺える。

これまでのアンケートの結果と考察から読み取れることは、保育内容(言葉)の授業では、「子どもの言葉の発達」を学ぶ事と共に、「保育者の言葉遣い」の学び、それに伴い「保育者としての正しい言葉遣い」の学びが必要であり、それらの学びが「子どもの言葉の発達」には必要な事柄であり、授業の学びとしてのイメージをもっているよう事が読み取れた。

(4) 授業の流れおよび内容

ここでは、シラバスに沿って15回行った授業の流れ及び内容を記載する。

### 第1回（4月6日）オリエンテーション

（この授業は、A・B・Cの3クラスに分けられており、3クラスとも同じシラバスで授業を行う。）

- ・毎年、このオリエンテーション時には、ほとんどの学生が教科書を持ってこない事が多く、今年度も5名のみ教科書持参で、ほとんどは教科書がない状況での授業になる。
- ・アンケート調査
- ・乳児が書いた文字以前の書いたもの等をスクリーンで見る。（写真1）

### 第2回（4月13日）子育てと言葉

人間にとって言葉が意味することは何かを考えながら、子育ての中での「子どもの言葉」の発達について学ぶ。

- ・前もって教科書第1章を読んで、各自大切と考える箇所をマーカーで下線を入れて来るように指示してあったが、読んで来ている学生は僅かと思われる。教科書に沿って、発表しながら、ポートフォリオに記入する。（写真2）
- ・隣同士で、今日気が付いた事を1分間スピーチをして、相手の話を聞く。しかし、ここでは、自分の話を相手に伝える演習とするが、友達同士の日常の会話になってしまう。

### 第3回（4月20日）領域「言葉」が目指しているもの

- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針での領域「言葉」での「ねらい」及び「内容」を、子どもの生活の中の具体例から理解していく。
- ・1分間スピーチを全体の前で発表（今日出会ったこと、感じたこと）

### 第4回（4月27日）領域「言葉」とほかの領域との関係

- ・領域「言葉」が子どもの生活の中でもつ役割を理解し、他の領域との繋がりを学ぶ。子どもの言葉“おはよう”の言葉一つを、他の領域「健康」「環境」「人間関係」「表現」との関係について具体的な事柄を話し合いながら、他の領域とのつながりを理解して行く。
- ・1分間スピーチを全体の前で発表（今日出会ったこと、見つけたこと）は、前もって課題を知らせていたので、一回目より話せるようになってきている。しかし、中には話すことがないと返答する学生もいた。

### 第5回（5月11日）乳幼児の言葉の獲得について

- ・子どもが言葉を獲得して行く道筋を理解することによって、子どもが、今どんな発達をしているのかを知り、保育者の援助を学ぶ。
- ・実習前の学生は、子どもの発達を実感できていない状況であるので、教科書の内容に即し、現場のエピソードをまじえながら授業を展開していく。
- ・1分間スピーチ（あのう、めっちゃ、といういわゆる学生が普段の会話で使っている言葉を使わないでスピーチする課題をもたせる）意識はするものの、思わずその言葉が出てしまう状況である。

#### 第6回（5月18日）言葉を育てる環境（教師の役割他）

- 子どもの言葉が育つ具体的な様々な環境の在り方を知り、その大切さを学ぶ。特に、人的環境である保育者の役割の大切さを、教科書にある実践例を解説しながらその場に応じた保育者の役割について考えて行く。
- 具体的な保育者の子どもへの言葉かけについて、教科書に掲載されている写真や実践例をとおして話し合う。
- 学生はまだ実感が無く、正解を言って欲しいという思いが強くある。実際の子どもの姿を見ないままの話し合いになり、話が広がらない状況であった。  
しりとり遊びをする。考え込んだり、同じ言葉が出て、語彙（名詞）や経験の少なさを痛感する。
- 幼稚園での「しりとりあそび」を紹介（写真4）

#### 第7回（5月25日）言葉を育てる文化（絵本をとおして）

- 言葉は言葉のみで育つものではなく、「もの」を紹介して他者とのコミュニケーションの中で獲得されて行くことを理解し、子どもにとって「もの」とは何を意味し、どのような役割があるかを学ぶ。
- ここでは、保育現場での絵本の読み聞かせを中心に、各学生が選んだ絵本の読み聞かせを5～6人のグループで行う。言葉の美しさ、おもしろさ、不思議さを感じさせる情感豊かな読み聞かせを試みる。読み聞かせをした経験の個人差が大きく、これからの課題である。又、学生の絵本への関心興味には差があるが、読みきかせてもらう活動には心地よさを感じた様子だった。
- 言葉に関連がある絵本を紹介する。（ふしぎなナイフ・しりとりあそび絵本・ちょっとだけ、たんぼぼ他）

#### 第8回（6月1日）実際にお話をつくろう（素話し）

- 子どもの生活には、保育者がその日の生活（遊び）に即した話が不可欠であることを理解し、それぞれがテーマを決めてお話づくりに挑戦する。
- 学生は、何をどのようにすればよいのか全く見当もつかない様子だったが、テーマからの想像や、各自が読んだ絵本などを参考に話作りをする。擬音語、会話を入れながら、話が自分の中で見えてくることの大切さを解説しながら授業を進めた。
- 全員発表するが、必死になり作ろうとする事が今日の学びとなった。

#### 第9回（6月8日）実際にお話をつくろう（つづき話し）

- この回では、グループで一つのテーマを決め、順番に話しを続ける「つづき話し」に挑戦する。グループでの練習の後、各グループが発表する。ここでの課題は、グループで作った話しを覚えるという作業にこだわり、話しを作り出す、相手（子ども）に話を聞かせて行く意識までには至らなかった反省がある。今後、学生の言語表現の未熟さをどのように

解決していくかが課題である。

#### 第10回・11回・12回（6月15日・22日・29日）カルタづくり

- ・3コマの間に仕上げる事を決め、カルタづくりに入る。各クラスとも一人、一字を4種類作成する。これらのワークは、カルタの文字で表された読み札と、絵で表されて取り札とのつながりを工夫して作ることにより、文字表現の楽しさを感じて行くことを課題とする。
- ・作る早さに個人差があるが、クラスでの完成を目指し、お互いアイデアを出し合ったり、手伝ったりしながら作り上げる。（資料3）

#### 第13回（7月6日）カルタとり大会

- ・全員でカルタ取りを行う。グループで取り方の工夫や、それぞれのカルタの内容を味わう事を課題とする。
- ・色々な取り方を工夫しお互い発表することで、他のグループも試してみる。自分たちで作ったカルタであること、必ず自分の作ったのがあり、それぞれが楽しんでカルタ取りをしようとする気持ちをもたせて活動に臨めた。

#### 第14回（7月13日）言葉にかかわる諸問題

- ・子どもの言葉の発達に関する起こりうる諸問題の現状や、解決方法を認識し、保育者に出来る援助を学ぶ。
- ・特に、現在の社会において、母語を喪失している子どもやその家族への保育者としての支援について考える。

#### 第15回（7月20日）振り返りと確認とテスト

- ・記述式で確認テストを行う。
- ・授業を受けてのアンケート実施

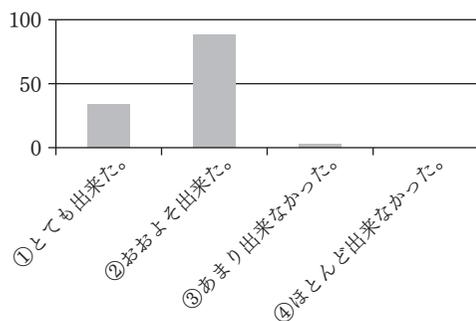
#### （5）授業の終わりでのアンケートと考察

15回の授業終了時での質問事項は、授業を終えて、乳幼児の言葉の発達に関し及び理解が出来たか、2授業の内容で、知りたい知識を得ることが出来たか。3授業で行った「言葉あそび」は今後役に立つか、4授業の中で書いた「ワークシート」を今後参考するかを、①とても、②おおよそ、③あまり、④ほとんど、の4段階で表し、各自が該当する欄に○印を書き入れる形式で行った。授業の感想として自由記述を入れた。この質問に対しても、最初に行った質問と同じように、記名式で行うが、書かれた内容が、授業の成績に一切無関係であることを周知し、自由に記述出来るように配慮した。

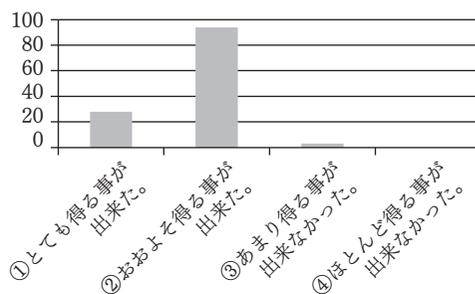
この質問の分析は、確かな数量が読み込み出来ることもあり、各質問をグラフで表し考察した。自由記述に関しては、全員が回答したわけではない（59名回答）ので、類似した主な感想の数字を記述する。

アンケートの質問の1から4までは、当てはまる項目に○を入れる形式での回答となるため、回答が数字で表すことが出来るため、下記に示すように、表われた数字をグラフで表すことにした。

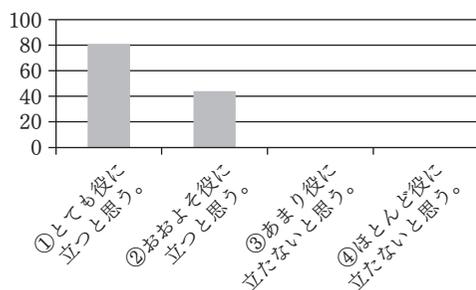
1 授業をおえて、乳幼児の言葉の発達に関心及び理解ができましたか。



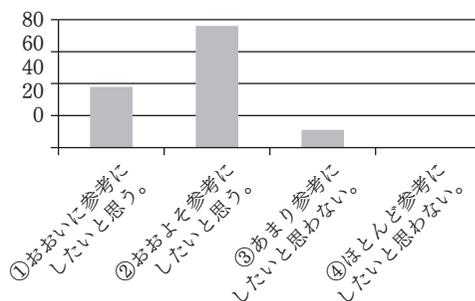
2 授業の内容で、あなたが知りたい知識を得る事が出来ましたか。



3 授業の中で行った「言葉あそび」は、今後役に立つと思いますか。



4 授業の中で書いた「ワークシート」は、今後参考にしたいと思いますか



上記のグラフから、「おおよそ出来た」「役に立つ」「参考にしたい」との学生の意見が読み取れる。ここでは授業のなかで、それなりに、「知識・関心」が出来、今後「参考になること」になることも学んだという事が読み取れる。しかし、3の「言葉あそび」以外の「質問に対して、「あまり役に立たない」、「あまり参考にしたくない」との回答があることも留意して行かなければならないと受け止めた。授業の実践への結びつきにくいところがあり、十分に受け止めきれないところがある考える必要がある。

次に、授業を終えての自由記述の感想を同じ意見のグループにまとめたものを考察していく。

#### 授業の感想

- ・言葉あそび、特にカルタづくりが楽しかった。 39
- ・子どもの「言葉」の発達と保育者の大切さがわかった。 19

- ・「言葉」を中心としての5領域の関係が理解できた 10
- ・自分の「言葉」を見つめなおす機会になった。 5
- ・話づくりは難しかったが、人の前で話すことは良い経験になった。 3
- ・実習に役立てたい 5
- ・ポートフォリオの大切さが分かった。 5
- ・授業が難しく感じ、自分のまとめが当たっているかが解りにくかった。 1

以上の結果から学生の授業への興味関心、学び、理解を考察すると、ほとんどが、授業の内容はおおよそ理解でき、子どもの「言葉」の発達には理解を示してはいるが、実際に子どもとかわる経験がない学生にとっては、保育者としてどのような援助して行くかは実感がもてない様子を読み取れる。それに比べ、ワーク式の活動や実際自分たちが体験した事には、面白さや楽しさが実感出来ていることが分かった。また、人前で、話しをする機会が少なく、そのために緊張したりうまく言えない事が窺える。中には、「言葉」の授業がなぜあるのか分からなかったが、子どもにとって「言葉」の発達はとても大切だという事がわかった。この感想から学生の授業に対する率直な考えと受け止めた。今回のアンケートにおいては、初めのアンケートの質問内容と異なるため、厳密な読み取りには限りがあり、十分な検証には至っていない。より、厳密な検証を得る調査の方法や内容を、今後の課題としていく必要がある。

## おわりに

この論文をとおして、2年生の実習前の受講に対して、筆者は、この授業がこの学年に適切なのか、些か疑問に思っていた。しかし、15回の授業をとおして、確実に学生の意識の変化を受け止めることが出来たのではないかと考える。それは、保育内容の研究「言葉」の授業は、もちろん保育養成大学の専門の科目であるので、子どもの発達について学ぶと言う意識はあるものの、子どもや保育者の「言葉遣い」「正しい言葉遣い」との意識から、「言葉の遣い方」の学びではなく、子どもが「言葉」を獲得するための「保育者としての役割の大切さ」との受け止めに変化していることが分かった。また、環境の大切をも少しずつではあるが実感しつつあることも分かった。しかし、カルタあそびなど、自分たちが楽しめることは身近に感じられるが、経験していない事にまで学びを広げることに至っていない。このことは、授業の大きな課題でもあり、改善されるべき事である。

これからは、毎回の授業の中で、より実践に結び付けれる内容やワーク、話し合いや、視聴覚教材を使い、実際の子どもの姿などを通して、より子どもの実態や育ちが、学生にとって実感出来る授業の展開を工夫しなければならない。これからも、将来保育者として歩んで行く学生たちの身につく授業内容を模索して行く必要を痛感している。

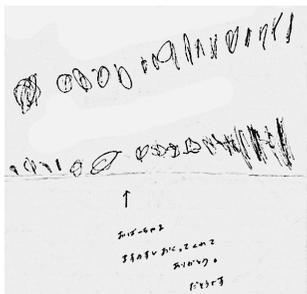
## 参考文献

- ・幼稚園教育要領 文部科学省 平成20年改定 平成29年度改定
- ・保育所保育指針 厚生労働省 平成20年改定 平成29年度改定
- ・保育内容 言葉 小田豊 芦田 宏 編著 北大路書房
- ・幼児教育知の探求18 領域研究の現在<言葉> 青木久子 小林紀子 萌文書林
- ・研究授業「保育内容一言葉」の実施報告 井上範子 高松短期大学研究紀要

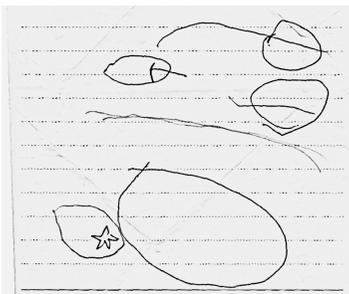
資料提供

慈愛幼稚園 年中組・年長組の言葉あそびの実際（写真）保護者への園だより

写真1 第1回の授業で見た実際子どもが書いたもの



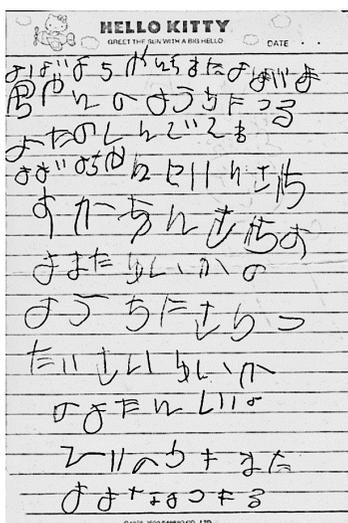
1歳児（はじめての文字）



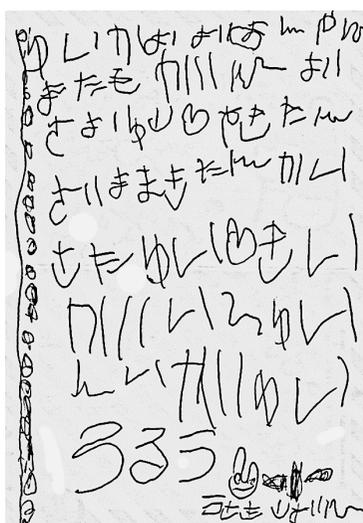
1歳児（絵と文字が一緒になる）



2歳児（意味ある文字を書こうとする）



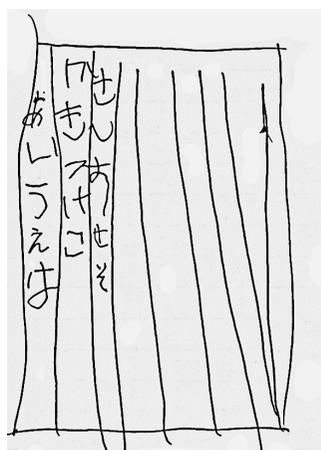
3歳児（祖母にあてた手紙）



4歳児（知っている言葉を書いている）



5歳児（絵本づくり）



5歳児（あいうえお…書きはじめ）

写真2 授業でのポートフォリオの一部

**授業の中で確認できたこと**

言葉だけだとたかさんのものが育つ211くの211はなく、5領域の環境・人間関係・表現・伝承・言葉がうまく関連あることと~~育つ~~育つ211くのTと改めを知りました。  
また、言葉が「あること」だけでなく関係が「育つ」集団性が「育ち」認識も「育ち」211ると学び、言葉の重要性にも改め気づくことができました。

**今日の授業内容での確認**

周りの大人が話している言葉を子どもは聞いて、話せなくても表現しているの、保育者は何気なく使っているときも少し気をつけてあげなければならぬと感じました。  
また、小さなことにも気づき、不思議に思う年齢の子どもたちからの気づきから、その気持ちを大切に、援助していくことも学びました。

**・Column9・column10から感じられること。**

子どもは、日常生活のなかから言葉、記号、文字などの使い方を学んでいくと知り、保育者は何気なく使っているときも少し気をつけてあげなければならぬと感じました。  
また、小さなことにも気づき、不思議に思う年齢の子どもたちからの気づきから、その気持ちを大切に、援助していくことも学びました。

写真3 ワークでの学生が作ったカルタ



写真4 幼稚園現場での実際の活動の紹介

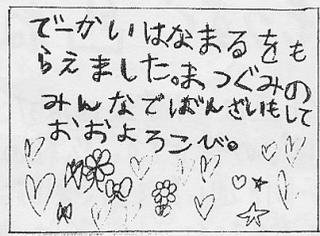
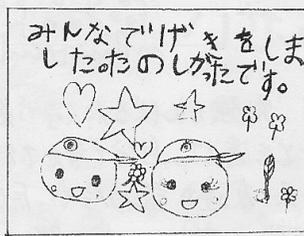
保護者へのお便りによる、園児の「ことばあそび」の紹介（慈愛幼稚園提供）



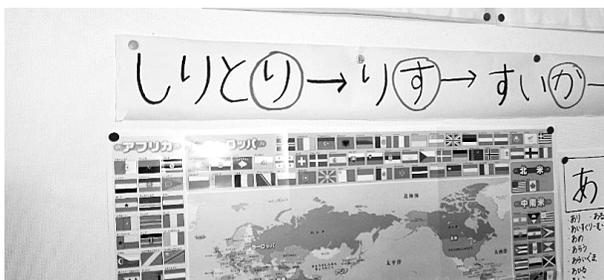
3学期に入ってから、すごろく、しりとりあそびなどことばや文字に触れるあそびを楽しんでいます。しりとりあそびはもうすぐ部屋を一周するほど繋がっています。ことばあつめは知っている言葉を発表し、各クラス様々な言葉があつまりました。

☆絵本づくり(年長)           

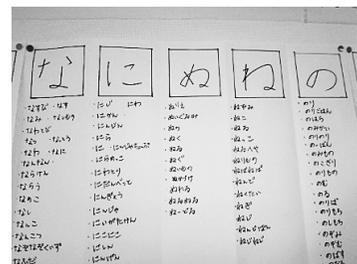
年長組の子どもたちは一人一冊絵本を作りました。はじめは目を丸くしてどうやって書くのかと不思議そうな子どもたちでしたが、いざ書き始めるとそれぞれのペースで集中して取り組んでいました。馴染みのあるお話の中にもオリジナルもあつたりで子どもたちの作ったたった一つの絵本が出来ました。出来上がった時の子どもたちの表情は満足気でした。



年中組での活動（しりとりあそび）



年長児の言葉あつめ



年長児の絵本作り

